

【山崎主宰の俳句】

留守

山崎 聰

命終のひとつ風の中の榎櫃  
筋肉をほぐす運動神の留守  
木の葉舞って種火のごときもの二三  
村の子と立冬のうすあおい田圃  
戦争の木という木あり十二月  
穢土泥土まっさかさまに冬銀河  
暗きより出でて暗きへ冬の鳶  
十二月八日が近し漂えり  
どこをどう曲れば十二月の火花  
年迫る思い両国橋のたもと